

Volcanic Disaster Reduction Summit



2009年1月30日発行



■編集・発行

北海道火山防災サミット実行委員会

2008十勝岳地方実行委員会

■事務局

NPO法人環境防災総合政策研究機構

〒060-0001 札幌市中央区北1条西8丁目2-39

日宝大通ビル8F Tel. (011)271-2663



「十勝岳火山防災フォーラム」開催!!



2009年1月23日・24日

1988-89年十勝岳噴火から20年にあたることから開かれた「北海道火山防災サミット2008 in 十勝岳」。その集大成「十勝岳火山防災フォーラム」が上富良野町で開催されました。会場には、住民や関係機関、研究者など延べ約380名が参加しました。

Volcanic Disaster Reduction Summit 2008 in Tokachidake

SUMMIT NEWS LETTER

23日（1日目）「火山防災への取り組み報告」



「火山防災への取り組み報告」では、十勝岳の火山防災に関する基盤整備や地域での防災啓発の取り組み、ならびに今後の方向性などが21機関から報告されました。

23日(1日目)「パネルディスカッション」

「～新たな情報 噴火警報をどう活かす～」



「噴火警報」をテーマにパネルディスカッションが行われました。気象庁の「火山情報」は、2007年12月気象業務法改正に伴って、「噴火予報・警報」になりました。昨年12月には十勝岳でも運用が開始されています。この「噴火予報・警報」の情報内容と防災対応の深刻化についてどのように取り組んで行けばよいかなど議論されました。

コーディネータ：山崎 登(NHK解説委員)、パネリスト：大島弘光(北海道大学)、佐藤十一(札幌管区気象台)、田鍋敏也(壮瞥町)、渡辺俊一(足寄町)

24日(2日目)「記念講演」

「十勝岳を知る～自然の恵みを発信しよう～」

和田恵治

(北海道教育大学旭川校教授)



「基調講演」

「洞爺湖有珠山ジオパーク～平穏期の火山防災啓蒙の取り組みについて～」



山中 漢(壮瞥町長、日本ジオパーク連絡協議会副会長)

岡田 弘(北海道大学名誉教授、洞爺湖・有珠山ジオパーク科学検討委員会委員長)

会場には、昨年8月の「親と子の火山砂防見学会」で生まれた書道の作品も展示されました。



24日(2日目) シンポジウム

「十勝岳 1988 噴火から 20 年」

これまでの減災まちづくりに関わった地元住民や自治体、関係機関の方々をパネリストとして迎え、災害体験とまちづくりから生まれた教訓、減災まちづくりや防災体制のあり方について論じられました。



コーディネーター：新谷 融(北海道大学名誉教授)

パネリスト：齋藤 英夫(大正泥流経験者子孫、美沢地区住民)
佐々木 修司(大正泥流経験者子孫、日新地区元住民)
早坂 和廣(元美瑛町助役)
成田 政一(上富良野町郷土をさぐる会会長)
千葉 茂美(美瑛町総務課長)
服部 久和(上富良野町総務課長)
齋藤 大作(旭川開発建設部治水課長)
阿部島 啓人(旭川土木現業所治水課長)

2008 in十勝岳サミット宣言



上富良野町長、美瑛町長ならびに支援機関代表、さらに次世代への継承者となる北海道教育大学旭川校学生合わせて11人が、豊かで安全なまちづくりを目指して火山とともに生きることを宣言しました。